

『沖縄芸術の科学』 第三十三号（二〇二二年三月） 別刷

【資料紹介】

近代沖縄 組踊関連年表

鈴木耕太

【資料紹介】

近代沖繩組踊関連年表へ抄▽

鈴木耕太

凡例

- 一 本年表は、これまで刊行された芸能年表および、紀行文、新聞などを用いて、近代沖繩における組踊に関する事項をまとめたものである。本年表における「近代」とは琉球処分が行われた一八七九年から一九四五年の沖繩戦までの期間を指している。また、近代における資料は今後さらに発見できる可能性があるためへ抄▽とした。
- 一 「掲載年月日」は資料元に記載されたもの（新聞広告などの上演情報）を採用している。
- 一 「上演年月日」は、「掲載年月日」以外の日で上演がわかる日付がある場合に参考として付した。項目によっては、「掲載年月日」より前の日付の場合がある。また、「上演年月日」が「掲載年月日」と同じ場合は「\*」を付し、不明の場合は空欄とした。
- 一 「演目名」は資料元のものを使用した。
- 一 「上演場もしくは劇団名」は、演目を上演した劇団や団体、もしくは上演された場所を記載した。近代は劇団が劇場を経営（いわゆる常設での上演）している場合が少ないため、基本的に劇団名か上演場所のどちらかを表示しているケースが多いためである。
- 一 典拠の略記号については以下の通りである。「組」組踊関連年表『組踊への招待』、「史」沖繩芸能史年表『新訂増補沖繩芸能史話』、「大」沖繩芸能史略年表『沖繩芸能大鑑』、「新」新聞に見る明治期商業演劇における組踊『沖繩の組踊（一）』、「文」近代沖繩演劇略年表『沖繩芸能文学論』、「那」近代沖繩演劇略年表『那覇市史』、「沖」琉球芸能史

年表『沖繩の芸能』、「舞」沖繩舞踊年表『沖繩舞踊の歴史』、「年」『琉球沖繩芸能史年表』、「真」組踊歴『真境名由康 人と作品』上巻、「新聞」新聞記事。

一年表の一八九三年から一九四五年までのうち、掲載年のみの記載である「真」が典拠の項目は、個人の記憶による上演史であるため、客観性は乏しいが、同時期の新聞などの資料がなく確認ができない。しかし貴重な上演記録であるため、年表に採用した。

一年表のうち一九〇二～〇四年、一九三〇年、一九三四～三五年、一九三七年、一九四一年、一九四四～四五年は上演記録などが見られない。また、単純に沖繩戦などによつて資料がない、あるいは公演情報が発表されなかったといった時代の制約があつた可能性もあるため、今後の資料発掘などで年表の内容が変わることを付け加えておく。

### 近代沖繩組踊関連年表（抄）

掲載年月日	上演年月日	演 目 名	出演および劇場	典 拠	備 考
一八九三年七月	明治二六年七月	姉妹敵討	大阪角座	〔史〕	渡嘉敷守儀の公演
一八九四年		女物狂	仲毛芝居	〔沖〕	玉城盛義六歳、仲毛芝居入座、初舞台「女物狂」童子役
一八九五年		大川敵討	本演芸場	〔沖〕	真境名由康七歳、本演芸場入座、初舞台「大川敵討」若按司役
一八九五年		銘苅子	本演芸場	〔真〕	
一八九五年		高山敵討	本演芸場	〔真〕	
一八九六年		父子忠臣の巻	本演芸場	〔真〕	
一八九六年		二山和睦	本演芸場	〔真〕	

一九〇〇年 四月一日	同年四月	手水之縁	首里演芸場	〔年〕	<p>「右終りて組踊手水の縁にて此日の幕となりしハいと惜むへし余も此地へ来りて已に八年の星霜を経たれば演芸を見る又数回のおき及へり然り首里の演芸を見るは今日を嚆矢とす其衣装の美くしさと優美なるにハ他の演芸の遠く不及處あり是等も畢竟冊封使の爲めに用へたるものならんと思はる俳優も従かつて高尚にして技芸も中々達者なり終日観客に飽かしめざるは感心の外なし」垣花山人の芸談。初出が四月十一日「此日祝日なるを以て満場立錐の余地なし」とある。正確な日付は不明。「此日祝日」とあるが掲載日は清明（四月五日から六日、旧三月六日）一七日に当たっている。当時の皇太子（大正天皇）の成婚慶賀の時期に当たっているが、成婚日は五月二日。</p>
一八九九年		護佐丸忠義伝	新演芸場	〔真〕	
一八九九年		大城崩	新演芸場	〔真〕	
一八九八年 一〇月二五日	明治三十一年 一〇月二三日	姉妹敵討	新演芸場	〔年〕	
一八九八年 一〇月二日	同年一〇月	八重瀬	仲毛芝居	〔年〕	
一八九八年		女物狂	新演芸場	〔真〕	
一八九七年		花売の縁	新演芸場	〔真〕	
一八九七年		執心鐘入	新演芸場	〔真〕	
一八九七年		忠臣身替	本演芸場	〔真〕	
一八九七年		久志山敵討	本演芸場	〔真〕	
一八九六年		伏山敵討	本演芸場	〔真〕	

一九〇六年	一九〇五年	一九〇五年	一九〇五年	一九〇五年	一九〇五年	一九〇一年 一月九日	一九〇一年 六月一日	一九〇一年 五月一日	一九〇一年	一九〇一年	一九〇一年	一九〇〇年 六月七日	一九〇〇年 六月七日	掲載年月日
						同年一月七 日	*	同年五月一七 日				同年六月	同年六月	上演年月日
智軍之縁	姉妹敵討	忠臣身替	本部敵討	本部敵討	巡見の官	万歳敵討	護佐丸義臣伝	不明	久志山敵討	大川敵討	伏山敵討	忠義果敢	微行の巻	演目名
本演芸場	本演芸場	本演芸場	本演芸場	本演芸場	本演芸場	本演芸場	新演芸場	波上祭	新演芸場	新演芸場	新演芸場	本演芸場(下の芝 居)	不明(新演芸場か)	出演および劇場
[真]	[真]	[真]	[真]	[真]	[真]	[年]	[年]	[年]	[真]	[真]	[真]	[年]	[年]	典拠
						北白川妃殿下富子が台湾から帰京の途中、沖繩に滞在。七日に記事が掲載され九日は「妃殿下奉迎の景況」とあって「七日午前九時」中城湾に到着。同記事中「昨八日御巡覧」の項目に上演が確認できる。「一日の記事によると九日の午後、沖繩を発っている。」								備考

一九〇六年			万歳敵討	本演芸場	〔真〕	
一九〇六年 七月二五日	同年七月二八 日	東辺名夜討	球陽座	〔年〕〔新〕	球陽座「一派設立迄週間年」として上演。「改良し、大道具仕掛とんでん返しを以て御尊覧に可供」とある。「組」に沖繩座で二度「東辺名夜討」上演。とあるが確認できない。	
一九〇六年 九月二三日	同年九月二一 日	東辺名夜討	球陽座	〔年〕〔新〕	「組」に沖繩座で二度「東辺名夜討」上演、とあるが確認できない。	
一九〇六年 九月三〇日	同年九月二九 日	大南山	沖繩座	〔年〕〔新〕		
一九〇六年 一〇月一九 日	同年一〇月 一七日	婿取敵討	沖繩座	〔年〕〔新〕		
一九〇七年		二童敵討	不明	〔史〕	その他、渡嘉敷守礼大阪公演	
一九〇七年		手水の縁	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…西掟	
一九〇七年		手水の縁	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…志喜屋の大屋子	
一九〇七年		大城崩	沖繩座(本演芸場)	〔真〕		
一九〇七年		執心鐘入	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…鬼女	
一九〇七年		執心鐘入	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…座主	
一九〇七年 一月一七日	同年一月一六 日	智軍之縁	沖繩座(下の芝居)	〔年〕〔新〕	玉城三郎を招聘(二ノ一三記事)「大」では「玉城盛重」を招いてとある。	
一九〇七年 二月一三日	同年二月二三 日	義臣物語	沖繩座(下の芝居)	〔年〕〔新〕	「組」…日付ナシ。沖繩座で「孝行の巻」「東辺名夜討」「義臣物語」上演。とある。沖繩座のこの年の公演では「孝行の巻」「東辺名夜討」は見いだせない。	

一九〇七年 四月一六日	日	同年四月一五	北山復讐之巻	沖繩座	「年」「新」	「旧三月三日ヨリ」とある。この年の旧暦三月三日は四／一五
一九〇七年 四月一六日	日	同年四月一五	本部大主	沖繩座	「年」「新」	「旧三月三日ヨリ」とある。この年の旧暦三月三日は四／一五
一九〇七年 四月一六日	日	同年四月一五	智軍之縁	沖繩座	「年」「新」	「旧三月三日ヨリ」とある。この年の旧暦三月三日は四／一五
一九〇七年 四月一六日	日	同年四月一五	忠孝婦人	沖繩座	「年」「新」	「旧三月三日ヨリ」とある。この年の旧暦三月三日は四／一五
一九〇七年 四月一三日	*		不明	球陽座	「年」	「踊種及ヒ組踊アリ」とある。
一九〇七年 四月七日		同年四月六日	本部大主	沖繩座	「年」	
一九〇七年 四月六日	*		手水の縁	春日座	「新」	
一九〇七年 三月三一日	*		忠孝婦人	春日座	「年」	「新」は四月二日としている。
一九〇七年 三月三一日	*		本部大主	沖繩座	「年」「新」	
一九〇七年 三月二六日	日	同年三月二三	忠孝婦人	沖繩座	「年」	
一九〇七年 三月一七日	*		二童敵討	沖繩座	「年」	奥武山公園の会場にて上演。
一九〇七年 三月一〇日		同年三月九日	忠孝婦人	沖繩座	「年」「新」	
掲載年月日		上演年月日	演 目 名	出演および劇場	典 拠	備 考

一九〇七年 六月四日	同年六月三日	忠臣身替之卷	沖繩座	〔年〕〔新〕	〔当ル六月三日〕百四月廿二日 月曜日ヨリとある。六月三日は月曜日だが、旧曆四月二十三日である。旧曆の表記ミスと判断した。
一九〇七年 六月一日	* 日	孝行之卷	球陽座	〔年〕	〔来ル「王曜日」ヨリ〕とあるので五月二五日とした。
一九〇七年 五月二四日	日	孝行之卷	球陽座	〔年〕〔新〕	
一九〇七年 五月二一日	* 日	銘苺子	沖繩座	〔年〕〔新〕	
一九〇七年 五月一六日	日	執心鐘入	球陽座	〔年〕	〔来る(土曜日)より〕とあるので上演日は五ノ一八とした。五ノ一八から新聞に梅山による「執心鐘入」の詞章が掲載される。
一九〇七年 五月一〇日	* 日	反問之卷	沖繩座	〔年〕〔新〕	
一九〇七年 五月一日	日	北山復讐之卷	沖繩座	〔年〕	
一九〇七年 五月一日	日	本部大主	沖繩座	〔年〕	
一九〇七年 五月一日	日	智軍之縁	沖繩座	〔年〕	
一九〇七年 五月一日	日	忠孝婦人	沖繩座	〔年〕	
一九〇七年 四月三〇日	日	姉妹敵討	春日座	〔年〕〔新〕	
一九〇七年 四月一七日	日	大川敵討	春日座	〔年〕〔新〕	〔四月十五日(旧三月四日)〕とある。新曆と旧曆の日付が異なるため、浜下りの興行と判断した。四月五日より、新聞に瓢痴による「大川敵討」の詞章が掲載される。



一九〇八年			矢藏之比屋	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…兼箇段大主
一九〇八年			矢藏之比屋	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…森川の比屋
一九〇八年			東辺名夜討	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…東辺名の按司
一九〇八年			東辺名夜討	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…玉井
一九〇八年			護佐丸忠義伝	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…勝連の按司
一九〇八年			護佐丸忠義伝	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…大城大主
一九〇八年			万歳敵討	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…謝名の子
一九〇八年			万歳敵討	沖繩座(本演芸場)	〔真〕	真境名由康配役…高平良御領
一九〇七年 八月三日	*		姉妹敵討	沖繩座	〔年〕〔新〕	
一九〇七年 七月二七日	*		姉妹敵討	沖繩座	〔年〕〔新〕	「当ル七月廿七日」旧六月十七日 土曜日ヨリ」とある。
一九〇七年 七月二一日		日	姉妹敵討	沖繩座	〔年〕〔新〕	「当ル七月廿日」旧六月十日 土曜日ヨリ」とある。
一九〇七年 六月二九日	*		久志之若按司	沖繩座	〔年〕〔組〕	「組」…真境名由康、沖繩座で「久志の若按司」上演。とある
一九〇七年 六月二二日	*		矢藏之比屋	球陽座	〔年〕	「新」…M四〇・六・二一
一九〇七年 六月二二日	*		久志之若按司	沖繩座	〔年〕〔新〕	「組」…真境名由康、沖繩座で「久志の若按司」上演。とある
一九〇七年 六月一四日	*		忠臣身替之巻	沖繩座	〔年〕〔新〕	
掲載年月日	上演年月日		演目名	出演および劇場	典拠	備考

一九〇八年 八月二二日	同年八月一四 日	微行之巻	沖繩座	「年」「新」 「組」	「組」…日付ナシ。沖繩座で「微行の巻」上演。 とある。新聞に「当ル八月十四日「旧七月十六日」ヨリ」とある。新曆を採用。十四日は旧曆七月十八日。
一九〇八年 八月二二日	*	東辺名夜討	球陽座	「年」「新」 「組」	「組」…日付ナシ。球陽座で「東辺名夜討」上演。 とある。球陽座この年九月に回り舞台を作る。
一九〇八年 八月三日	同年八月一日	微行之巻	沖繩座	「年」「新」 「組」	「組」…日付ナシ。沖繩座で「微行の巻」上演。 とある。新聞に「当ル七月十八日「土曜日」旧六月二十日ヨリ」とある
一九〇八年 七月二七日	同年七月二六 日	微行之巻	沖繩座	「年」「新」 「組」	「組」…日付ナシ。沖繩座で「微行の巻」上演。 とある。新聞に「当ル七月十八日「土曜日」旧六月二十日ヨリ」とある
一九〇八年 七月一七日	同年七月一八 日	微行之巻	沖繩座	「年」「新」 「組」	「組」…日付ナシ。沖繩座で「微行の巻」上演。 とある。新聞に「当ル七月十八日「土曜日」旧六月二十日ヨリ」とある
一九〇八年 四月一〇日	同年四月一一 日	不明	沖繩座	「年」	「当ル四月十一日「旧三月十一日」土曜日ヨリ」 「但シ猶組踊ハ御望次第」とある。
一九〇八年 四月三日	同年四月二日	北山復讐之巻	沖繩座	「年」「新」	「当ル四月二日「旧三月二日」木曜日ヨリ」とあ る。
一九〇八年 二月二日	同年二月三日	忠孝婦人	沖繩座	「年」「新」 「沖」「大」	「大」…二月五日。「当ル二月三日「旧正月二日」 月曜日ヨリ」とある。
一九〇八年		女物狂	沖繩座 (本演芸場)	「真」	
一九〇八年		父子忠臣之巻	沖繩座 (本演芸場)	「真」	
一九〇八年		忠臣身替	沖繩座 (本演芸場)	「真」	真境名由康配役…八重瀬の按司
一九〇八年		忠臣身替	沖繩座 (本演芸場)	「真」	真境名由康配役…吉田の子

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九〇八年八月一九日	同年八月一五日	微行之巻	沖繩座	「年」「組」	「組」：日付ナシ。沖繩座で「微行之巻」上演とある。
一九〇九年八月八日	同年八月七日	南山崩	沖繩座	「年」	「当ル八月七日(旧六月二十三日)ヨリ」とある。八月七日は旧暦六月二十二日である。旧暦の表記ミスと判断した。
一九〇九年十一月一日		忠孝婦人	沖繩座	「年」	鬱川主人による劇評より。
一九〇九年十一月三日	同年十一月一日	忠孝婦人	沖繩座	「年」	琉阿彌による劇評より。劇評中「一昨日一寸のぞいて見た」とある。
一九〇九年十一月七日	同年十一月一五日	忠孝婦人	沖繩座	「年」	十一月十五日の記事に「本日沖繩座に於て純琉球劇を演ぜしめ観劇する由なるがドラマは忠孝婦人、狂言はウヤンマーなり」とある。
一九〇九年十一月九日	同年十一月一三日	姉妹敵討	球陽座	「年」	「十一月十三日土曜日ヨリ開演」とある。「新」：M四二・一一・一
一九〇九年十二月二六日	明治四三年一月一日	銘荊子	明治座	「年」「新」	「新」：M四二・一二・二八、M四三・一・七 新聞に「当ル明治四十三年一月一日ヨリ御披露」とある。
一九一〇年一月七日	同年一月八日	銘荊子	明治座	「年」「新」	「新」：M四三・一・七 新聞に「当ル一月八日土曜日ヨリ」とある。
一九一〇年三月一四日	*	忠孝婦人	沖繩座	「年」「新」	「新」：合同劇／成田家一派／真境名一派とある。新聞に「開明団成田家一派並に沖繩座真境名一派合同致し」とある。
一九一〇年四月一〇日	同年四月九日	花見の縁	沖繩座	「年」「新」	「新」：M四三・四・一〇、二三 新聞に「当ル四月九日土曜日ヨリ」とある

一九一〇年 五月一七日	一九一〇年 五月三日	一九一〇年 五月一日	一九一〇年 五月一日	一九一〇年 四月二三日	一九一〇年 四月二三日	一九一〇年 四月二三日	一九一〇年 四月一三日
日 同年五月一五	同年五月二日	日 同年四月三〇	日 同年四月三〇	*	*	同年四月九日	同年四月九日
銘荊子	東辺名夜討	仲んかりマカト	忠孝婦人	花見の縁	浦千鳥	仲んかりマカト	忠孝婦人
沖繩座	協和団	協和団	協和団	沖繩座	明治座	協和団	協和団
〔年〕	〔年〕〔新〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔新〕	〔年〕	〔年〕〔新〕
「喜入区及び三新聞社主催の記者団観劇会は一昨日十五日午後七時より明治座に於て開かれたり」とある。	「新」：東比奈夜討。「組」：協和団で「東辺名夜討」上演。とある「当ル五月二日ヨリ」とある。原紙の演目名は「東比奈夜討」	組踊か。「琉球史劇 今帰仁由来記」の次に「同 仲んかりマカト」とある。上演日については右に同じ。	新聞に「当ル土曜日ヨリ」とだけあり、日付が不明。五月一日は日曜日であるため、その前日の四月三〇日とした。	「二組踊 花見の縁(但白樽金漢漢那若のの故事)」とある。	新聞に「当ル四月二十三日土曜日ヨリ」とある	新聞に「中幕一組踊 浦千鳥 但シ泊阿嘉物語」とある。歌劇だと思われるが、組踊仕立てで上演した可能性も少なからずあるため、組踊と判断した。	新聞に「当ル土曜日ヨリ」とだけあり、日付が不明。しかしこの年は四月十日から旧曆三月一日となるので、浜下りに合わせた企画だと判断し、上演日は四月十六日ではなく四月九日とした。四月十五日には協和団の興行が好調である様子が「旧三月節句と芝居」として報じられている。

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一〇年 五月二八日	同年五月 二三・二四日	伏山敵討	不明	「年」	東風平村富盛で行われたアブシバレー祭りにおいて上演。アブシバレー行事で、沖繩毎日新聞には「アブシバレー遊び(二輪加芝居)」とある。上演日ははじめ五/一七としていたが、この日は波上祭と同じ日に当たるため、記事中に「廿三日四日を以て挙行せん」とある。この年の五/一三・二四日は旧暦の四/一五・二六日にあつたため、上演日は五/二三・二四日とした。
一九一〇年 七月二二日	同年七月二三 日	辺戸大主	中座	「年」	中座の落成。協和団、寒川から引き上げて中座へ。新聞に「愈々明、二十三日(土曜日)より花々しく初舞台を開く」とある。
一九一〇年 一〇月二一日	同年一〇月 二二日	智軍之縁	沖繩座	「年」「新」	「新」：M四三三・一〇・二一(二二)新聞に「明廿二日ヨリ来ル廿六日マデ五日間」開催。
一九一〇年 一二月一五日	同年一二月 一七日	二童敵討	明治座	「年」「新」 「那」	日赤総裁閑院来島と関係あるか。「那」：「当ル十二月拾七日土曜日ヨリ」とある。
一九一二年		銘苅子	沖繩座?	「沖」	渡嘉敷守良が朝日座から退き、俳優募集をして公演。一回目は「白浪五人男」二回目に「銘苅子」渡嘉敷一派は八月二四日に沖繩座を引き上げ、二五日から首里に戻る(沖毎八月二五日記事)。渡嘉敷守良・守礼が朝日座を去ることが報じられるのは一九一二年一月二六日の沖繩毎日新聞であり、そこでは沖繩座に加入とある。「沖」では一九一一年となっているが、一九一二年の上演のことであろうか。

一九一二年 三月五日	*	執心鐘入	沖繩座	〔年〕〔新〕	
一九一二年 二月二四日	*	露梅之縁	中座	〔年〕〔新〕	
一九一二年 二月一九日	*	矢蔵之比屋	中座	〔年〕	新聞に「一同上 矢倉」とある。
一九一二年 二月一九日	*	護佐丸	中座	〔年〕〔新〕	新聞に「一組踊 護佐丸」とある。「二童敵討」の可能性が考えられるが、琉球新報（一九一一年一月三日）に矢野英雄が発表した「楽劇護佐丸」の可能性も考えられるか。「楽劇護佐丸」は琉球史や組踊を原作として創作したオペラのような作品である。
一九一二年 一月一日	*	中城若松	朝日座	〔年〕〔新〕	
一九一一年 六月二八日	*	忠孝婦人	朝日座	〔年〕〔新〕	首里の久場川にできた新劇場のお披露目公演。沖毎七月四日に劇評あり。渡嘉敷一派が興行するが、八月から（厳密には七月三十一日）より真境名一派と交換して、真境名が久場川、渡嘉敷が沖繩座で公演。
一九一一年 四月一日	*	忠孝婦人	沖繩座	〔年〕〔新〕	「旧三月芸題」としている。この年は四月一日が旧曆三月三日。
一九一一年 四月一日	*	改良手水之縁	沖繩座	〔年〕〔新〕	「旧三月芸題」としている。この年は四月一日が旧曆三月三日。
一九一一年 四月一日	*	智軍之縁	沖繩座	〔年〕〔新〕	「旧三月芸題」としている。この年は四月一日が旧曆三月三日。
一九一一年 三月一八日	*	忠孝婦人	中座	〔年〕	〔新〕：M四四三・一

一九一三年 四月九日	*	忠孝婦人	中座	〔年〕	旧三月三日公演
一九一三年 四月三日	同年四月五日	森川子	香霞座	〔年〕	『発展』刊行記念演劇会。新聞に「実業新聞『発展』の創刊記念の爲め来五六日の両日」とある。二日間開催。このとき、ドイツ人学者シーモン博士を伊波普猷が連れて観劇している。その様子が新報四月九日の記事にある。
一九一二年 七月二七日	*	孝女布晒	中座	〔年〕〔新〕	尚家所蔵の組踊本に基づく上演。「組踊本ハ尚家御所蔵ノ正本拝借シ諸装束諸道具スベテ正本ニ基キ調」えた、とある。
一九一二年 四月二〇日	*	護佐丸	中座	〔年〕〔新〕	「二童敵討」の可能性が考えられるが、矢野勇雄が発表した「楽劇護佐丸」の可能性も考えられるか。
一九一二年 四月一九日	*	執心鐘入	沖繩座	〔年〕〔新〕	
一九一二年 四月一九日	*	手水の縁	沖繩座	〔年〕	
一九一二年 三月一六日	*	銘苅子	沖繩座	〔年〕〔新〕	〔新〕：M四五・三・一三～一六 〔新〕：M四五・三・一三～一六
一九一二年 三月一三日	同年三月二二日	銘苅子	沖繩座	〔年〕〔新〕	〔新〕：M四五・三・一三～一六 新聞に「追テ三月十二日ヨリノ替芸左通り」とある。
掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考

一九一三年 六月二三日	*	花売之縁	中座	「年」「史」	毎日新聞社主催「古劇観劇会」二日間開催。六月二十日の沖繩毎日新聞に「今回横山健堂氏の来県を機とし来る廿三、四日の両日中座に於て本社主催なる観劇会を催すこととなり」とあり「沖繩毎日」に伊波普猷と金城紀光が横山達三を連れてきたことが書かれている。七月二十日沖繩毎日新聞の黒頭巾「琉球たより」に「此の夕（私注：二十三日）、「沖繩毎日」社、主催して、吾輩の為め、観劇会を中座に開き、特に、琉球旧劇を演ず。夜八時に始まり、十二時半に終る。興味津々、剋の移るを覚えず」とある。
一九一三年 六月二三日	*	二童敵討	中座	「年」「史」	毎日新聞社主催「古劇観劇会」二日間開催。
一九一三年 六月二六日	同年六月二五 日 二七日	花売之縁	中座	「年」	「古劇鑑賞会」が好評だったため、中座が三日間日延べ開催。
一九一三年 六月二六日	同年六月二五 日 二七日	二童敵討	中座	「年」	「古劇鑑賞会」が好評だったため、中座が三日間日延べ開催。
一九一三年 八月二三日	同年八月二一 日	花売之縁	中座	「年」	これは尚秀（玉城尚秀）が高野康雄氏に「琉球劇を紹介せんが為」注文したもの。八／二三に経緯が掲載される。
一九一三年 八月二三日	同年八月二一 日	手水之縁	中座	「年」	これは尚秀（玉城尚秀）が高野康雄氏に「琉球劇を紹介せんが為」注文したもの。八／二三に経緯が掲載される。また、この時の尚秀の観劇記が八／三〇、三十一日の「沖繩毎日新聞」に掲載される。
一九一三年 八月二八日	同年八月二六 日	二童敵討	中座	「年」	
一九一四年 一月一八日	同年一月一七 日	東辺名夜討	球陽劇団（球陽座）	「年」「大」	



掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一四年 一月二四日	同年一月二三 日	二童敵討	中座	〔年〕	那覇軍人優待会主催の演劇会。この年、帝国館が落成
一九一四年 三月一日	*	久志之若按司	中座	〔沖〕〔大〕	
一九一四年 三月一五日	*	忠孝婦人	球陽座	〔年〕〔史〕	発展社創刊記念祝賀会演芸(一五日から三日間)組踊は「忠孝婦人」は「但し乙樽谷茶城道行の場より谷茶、乙樽対面の場まで」とあり、抜粋して上演。「冠船劇に精通せる伊是名朝睦大工廻朝儀両氏」と渡嘉敷による指導。
一九一四年 三月一九日	*	忠孝婦人	球陽座	〔年〕〔大〕	発展社の演劇会が好評なため上演しかし「但し村原出羽ヨリ仇討チマデ」とあり、抜粋。〔大〕には「球陽劇団(球陽座)」とある。
一九一四年 八月八日	*	執心鐘入	中座	〔年〕〔大〕〔史〕	中座創立3周年記念興行。「史」：「中座創立四周年記念」とある。記事には「サテ本日(旧六月十七日)ハ弊座創立記念日ニ相当候」とあるが、この年の旧暦六ノ一七は掲載日である新暦の八ノ八である。中座の創立記事(一九一〇年)は新暦七ノ二三(旧暦は六ノ一七)であり、創立記念日は旧暦を採用していることがうかがえる。
一九一四年 八月八日	*	花売之縁	中座	〔年〕〔大〕〔史〕	中座創立3周年記念興行。「史」：「中座創立四周年記念」とある。
一九一四年 八月八日	*	二童敵討	中座	〔年〕〔大〕〔史〕	中座創立3周年記念興行。「史」：「中座創立四周年記念」とある。

一九一五年 九月三日	同年九月二日	手水之縁	大正劇場	〔年〕	「民報社創立一周年紀年演劇界。」八月、帝国館も景気が厳しくなり、昼間興行をとりやめ、夜興行のみになる。
一九一五年 五月二二日	同年五月二二日	不明(救番)	中座	〔年〕	青年沖繩創刊記念会。六月一五日・二五日の記事で大正劇場いよいよ落成。中座解散。新垣・多嘉良・平良・伊良波・吉本・永村・真境名らは大正劇場を借り受ける。
一九一五年 三月一六日	*	姉妹敵討	球陽座	〔新聞〕	尚昌の観劇。
一九一五年 二月二七日	同年二月二六日	忠孝婦人	中座	〔年〕	「昨夜の中座」記事。沖繩毎日新聞社の慈善演劇会。二月二八日の記事に「渡名喜島罹災民救済の為め」とある
一九一五年 二月一五日	*	東辺名夜討	中座	〔年〕〔大〕	
一九一五年 一月二三日	*	姉妹敵討	球陽座	〔年〕〔大〕	
一九一四年 一月二二日	*	忠臣身替	球陽座	〔年〕〔大〕	琉球新報の一二／一八付の劇評では組踊を毎週やる予定であると報じられるが、一二／五と一二／一一の二番をもって終わっている。当該記事の記載は「球陽座では試みとして琉球古劇を毎週演る事にした」とある。
一九一四年 一月二五日	*	久志之若按司	球陽座	〔年〕〔大〕	琉球新報の一二／一八付の劇評では組踊を毎週やる予定であると報じられるが、一二／五と一二／一一の二番をもって終わっている。当該記事の記載は「球陽座では試みとして琉球古劇を毎週演る事にした」とある。

一九一五年 九月二六日	一九一五年 同年九月二五日	女物狂	球陽座	「年」	九月一六日の記事で、球陽座が内紛。九月二二日の記事で、九月景気が悪いいため、中座と球陽座が合同となる。球陽座と大正劇場を交互に上演する、と報じられる。この広告に「真踊」と冠した舞踊名が出る。「真踊」を冠した踊りの演目名は「七福神」と「高砂」であり、タイトルからは日本風の踊のように考えられる。このことからこの時期、琉球の古典舞踊を「真踊」と表現していない可能性が指摘できる。
一九一五年 一〇月三日	*	中城若松	芸妓連	「年」	「お別れ芸」として上演する、と報じられる。読者（私注…ペンネーム「女好き」）から寄せられた記事に「本県に又とない女芝居を二週間で打ち切るとは心細い」とある。この時期は不景気から料理屋の営業が上手くいかず、新聞では料理屋数軒が集まって演舞場を設置する計画まで立てられる（が、実現はしない）。不景気のため、劇場にも空きがあるようで、先の記事を寄せた読者はこの女芝居を「中座の方へ常設」することを提案している。
一九一五年 一月九日	同年一月一日	辺土大主	久場川町	「年」	大典奉祝の余興として上演されることが報じられる。青年会の上演か。
一九一五年 一月一四日	同年一月一日	辺土大主	汀良町	「年」	大典奉祝の余興として上演されることが報じられる。青年会の上演か。
一九一六年 二月二四日	*	花売之縁	球陽座	「年」「大」 「文」「那」	山田真山の希望。この年、連鎖劇はじまる。

備考

一九一六年 四月二三日	*	忠孝婦人？	大正劇場	「年」	「忠孝婦人」として。
一九一六年 四月二一日	同年四月一 一七七日	忠孝婦人	大正劇場	「年」	「尚昌氏御夫妻及尚家の御家族は今夜大正劇場に於て開演の古典劇を御見物なさる、由」とある。四／二三「尚侯爵令嗣閣下の御婚儀御披露の為古劇再演す 二階 尚侯爵家御家族 階下一般公衆の甘観覧歓迎 民報社古劇保存会 大正劇場」とあり、直前の四／一一一七日までには「忠孝婦人」を上演していたことから、演目を仮に「忠孝婦人」とした。
一九一六年 四月三日	同年四月一日	微行之巻	中座	「年」	「組」：「玉城盛重、中座で『微行之巻』上演」とある。
一九一六年 三月二五日	*	微行之巻	中座	「年」「組」 「大」	民報社主催古典劇。民報社古劇保存会。四／一一「古典劇は今夜より開演。」玉城盛重の十八番万歳孝子」とある。高平良万歳であろう。
一九一六年 三月二二日	三月二一日	中城若松	中座	「新聞」	「組」：「玉城盛重、中座で『微行之巻』上演」とある。三／一二新聞には古劇保存を目的に、當間重慎・真境名安興・伊波普猷・球陽座と中座の幹部で「沖繩演劇協会」を設立。三／二五新聞に「玉城盛重氏十八番之微行之巻菊川按司上演」とある。
一九一六年 三月二一日	三月一〇日	万歳敵討	球陽座	「年」「大」	新聞に「本土曜日より替芸題」とあるので、上演は三月二一日とした。
一九一六年 三月		中城若松	球陽座	「大」	「大」：球陽座とあるが、球陽座での公演は見いだせない。三月二一日上演が見える、中座の公演の可能性もある。 「年」に「初日は三月十日より」とある。「大」では日付の詳細が不明であるが、「年」の記事と同じと考えた。

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一六年 五月一八日	五月二〇日	東辺名夜討	中座	〔年〕〔大〕	玉城兄弟の演出「琉球古劇保存を旨と致組踊を演じ度愈々来る土曜日(注…五月二〇日)より(玉城兄弟)板良敷老優、玉城盛政、玉城盛重出演致シ」とある。「大」:「東辺名夜討」「婿入敵討」上演とあるが日付不詳。
一九一六年 五月二七日	*	婿入敵討	中座	〔年〕〔大〕	〔大〕:「東辺名夜討」「婿入敵討」上演とあるが日付不詳。
一九一六年 六月三日	*	花売之縁	球陽座	〔年〕〔大〕	武藤文学士の所望による。新聞に「大正劇場の古劇」大正劇場潮会に於ては来県中の武藤文学士の所望に依り琉球古劇「花売之縁」を上演する由」とある。
一九一六年 八月九日	*	花売之縁	潮会	〔年〕	名護村の年中行事(豊年祝)の村芝居で組踊が上演されると報じられる。
一九一六年 九月八日	日 同年九月一二	不明	名護村	〔年〕	玉城村字前川の村芝居。記事に「翌日(私注…七日)は正午より字前川の村芝居見物に赴き候」昔しの仲毛芝居を偲ばしむ」「無難に演じ申候只八重瀬の按司だけが滑稽なりき」とある
一九一六年 九月一四日	同年九月七日	花売の縁	玉城村前川	〔年〕	玉城村字前川の村芝居。記事に「昔しの仲毛芝居を偲ばしむ」「無難に演じ申候只八重瀬の按司だけが滑稽なりき」とある。
一九一六年 九月一四日	同年九月七日	忠臣身替	玉城村前川	〔年〕	玉城村字前川の村芝居。記事に「昔しの仲毛芝居を偲ばしむ」「無難に演じ申候只八重瀬の按司だけが滑稽なりき」とある。

一九一七年 三月三日	*	不明	大正劇場	「年」	沖繩民報社主催「古典劇保存会第二回試演会」のお知らせ。第一回の記事が見当たらない。記事に「沖繩民報社主催古劇保存会は昨年大正劇場に於て開催し喝采を博したるが」とあるが、二年前の九月に行われている民報社一周年記念の会のことか。「因みに同社にては毎年春秋二回試演会を開くべし」とある。劇団名は不明。この頃大正劇場は前年十二月に旗揚げした「伊渡嶺団」が基本的に上演しているようである。
一九一七年 三月七日	日	花売の縁	伊渡嶺団	「年」	沖繩毎日新聞社主催の「読者観劇会。記事中に「一昨日と昨日の両日間大正劇場に於て開催された」とある。
一九一七年 三月二四日	*	銘苺子	中座	「年」「大」	女優の多嘉良妙子が出演し、人気となる。天女・乙樽・若松を演じた。人気になったので、中座は四／一二・五／二にも「銘苺子」「忠孝婦人」「執心鐘入」三作品のうち、いずれか上演する旨を告知している。女優の出演の記事が新聞から確認できるのは三月五日から上演の「エルナニ」。「大」には組踊の女優の記事はないが、「三月 中座の多嘉良朝成妻妙子(上里マヅル)、松居松葉本案の『エルナニ』」に出演。本格的な女優の嚆矢」とある。
一九一七年 四月一日	*	忠孝婦人	中座	「年」「大」	この時期、新聞に歌劇の禁止が叫ばれる。四／一一「野卑な文句と淫乱極まる所作」

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一七年 四月二一日	同年四月二二日	忠孝婦人	中座	〔年〕〔大〕	旧三月三日公演
一九一七年 四月二一日	同年四月二二日	忠孝婦人	中座	〔年〕〔大〕	旧三月三日公演
一九一七年 四月二一日	同年四月二二日	忠孝婦人	中座	〔年〕〔大〕	旧三月三日公演
一九一七年 五月二二日	*	銘苺子	中座	〔年〕	旧三月公演
一九一七年 五月二二日	*	銘苺子	中座	〔年〕	旧三月公演
一九一七年 四月一四日	同年四月一三日	執心鐘入	中座	〔年〕〔大〕	この組踊の回のみ「女優多嘉良妙子ノ琉球劇ニ出演致ス事ニ相成リ初回ノ琉球物ノ事トテ言葉ノ云違モ有之筈候間不悪御量察被下テ早々ヨリ御来観アラン事奉願候也」と女優への断り書きがある。四月一七日の琉球新報に劇評があり、「中座は女優の多嘉良妙子が未だ中々の評判で此の座も毎晩盛況を呈している」とある。六月三日の記事に、「上里マツル(多嘉良妙子)の退座が報じられる。その次に女優として名が上がるのは、同年九月二九日新報に、本荘幽蘭。潮会と合同で曾我廼家物「良妻」と喜劇「女八人」に出演。一〇月二八日新報に「幽蘭秀奴は別項の如く女学校前にて汁粉屋を開業する為め、潮会とは手を切り只毎週一回の日曜昼興行のみ合同して出演」とある。この幽蘭と秀奴も名前から芸妓ともとれるが、女優の可能性もある。

一九一七年 一月二五日	同年一月 二十六日	花売の縁	中座	〔年〕	青年沖繩の復活紀念祭の余興として上演。 一二月二九日の琉球新報で「本年の梨園界を振り返って」とあり、組踊が不人気に終わったことが報じられる。
一九一七年 一月三一日	*	姉妹敵討	潮会	〔年〕	
一九一七年 一月二八日	同年一〇月 二八日	姉妹敵討	潮会	〔年〕〔大〕	「琉球新報社創立二十五周年紀年祝賀会」の一 余興として上演。 新聞に「但し廿八日秋十三夜を期して当日より 上場」とある。七/三〇組踊の保存を訴える記 事が掲載される。八/六正大劇場潮会の活動 写真部が「大活館」を名のり、大正劇場で活動 写真の上映がはじまる。八月二六日新報「帝国 館と潮会の連鎖劇で活動熱が可成盛んになっ て」中座が又連鎖をやり出し大正劇場には大 活館という云ふのが出来て愈々那覇に於ける 興行物の凡てが活動写真で持切るようになって た」とある。八月四日琉球新報に鉢嶺喜次が役 者の廃業届を那覇区役所に提出したことが報 じられる。
一九一七年 九月二四日	*	万歳敵討	中座	〔年〕	
一九一七年 六月二日	*	新様喜劇 村原	潮会	〔年〕	六月二日・八日・十一日に「喜劇 村原(全一 幕)」を上演。新聞に「組踊村原の札問の場を 改作して至極面白く脚色せしもの」とある。組 踊の喜劇化である。
一九一七年 五月九日	*	執心鐘入	潮会	〔年〕	「御願により組踊一番上演」とある
一九一七年 五月二日	*	中城若松	中座	〔年〕	旧三月公演



掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一八年 二月三日	同年二月三日	忠孝婦人	中座	〔年〕	
一九一八年 二月一九日	同年二月二〇日	花売の縁	中座	〔年〕	一九日に「多分玉城盛重氏も出演すべし」「組踊其の他琉球固有の踊」と報じられ、大谷尊由師の為に上演。菅布教師、小牧、太原、南崎の案内で大谷氏は中座で見学。解説は「当間君」と「真佐雄」が務めた。「中座の花売の縁は同座が他府県から見える名士の観劇の時幾度も演つて居るだけに、現今の役者の組踊としては結構なもの」であると評している。掲載は一九日、二二日に見える。
一九一八年 二月二二日	*	義臣物語	潮会	〔年〕	この時に一緒に上演された「琉球史劇 狂乱の胡蝶」は「当会第一回脚本募集中当外佳作」とある。
一九一八年 二月二七日	同年二月二五日	村原	中座	〔年〕〔大〕	「観客のお望み」で上演。「文生」の劇評中に「今後は大いに組踊を復活すべしだ」とある。また「肝腎な役者諸君が演らなければ琉球の国劇たる組踊は亡んでしまふ」と記している。
一九一八年 二月二八日	*	義臣物語	潮会	〔年〕	三ノ一に劇評掲載。「安慶田の口上に『役者の未熟も顧みず当潮会が組踊を演るるのは琉球古来の国劇を保存すると又昔を追憶する為である』と其意気々々。是非其の意気で作つて貰いたい。役者の巧拙なんかは問題にあらずだ」以下劇評は苦言を呈している。三ノ四には中座が「本日より向う五六日間休業し、本県舞踊及び組踊の泰斗玉城盛重氏を聘して、高尚なる旧劇及び真踊等の稽古を励み芸の改善を計る」と報じられる。「文生」の潮会への劇評が原因か。

一九一八年 三月三一日	一九一八年 三月二九日	一九一八年 三月一八日	一九一八年 三月一六日	一九一八年 三月七日	一九一八 / 三月
日	* 同年三月三〇	日	日		
義臣物語	矢蔵	手水之縁	手水之縁	不明	国吉の比屋
中座	潮会	潮会	中座	潮会	潮会
新公論社					
「大」	「年」「大」	「年」	「年」「那」「大」「文」「組」	「年」「那」「大」「文」「組」	「大」
特に詳細なし。潮会の演目であろうか。	「高評有リシモ十四五年ブリ上場セザリシガ、御望ニ依リ上場ス」とある。	一五日に上演許可が出たので中座でも上演。三／一九荷川生の劇評で「兩座を覗いて見ると、予想とはまるで反対に、中座よりも潮会の方がずつと上出来で、中座は凡てが減茶苦茶で思わず眉をひそめた」とある。	一五日に上演許可が出たので中座でも上演。「古式ニ習ヒ上演ス」とある。また後日「御最良様の御望に依り日延上演」とある。三／一六記事「一部の不見識極まる警官連に依りて久しく上演禁止となり居たる平敷屋朝敏作組踊「手水之縁」は昨日、高橋署長に依りて許可されたり」とある。	一五日に上演許可が出たので潮会で上演。「古式ニ習ヒ上演ス」とある。また後日「御最良様の御望に依り日延上演」とある。三／一六記事「一部の不見識極まる警官連に依りて久しく上演禁止となり居たる平敷屋朝敏作組踊「手水之縁」は昨日、高橋署長に依りて許可されたり」とある。	「年」には劇評のみ。三月一日新聞に劇評が掲載されているため、二月二十八日の上演ではないかと思われる。 新公論社の仲里発天氏が発起人となり「組踊朗読会」を近日中に開催することが報じられる。朗読会の開催日不明。仲里発天は、同年五／二に「発天氏は数年前にも「忠孝婦人」の谷茶に扮して素人離れのした芸風で好評を博した」と報じられる人物。

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九一八年 四月一四日	*	手水之縁	都座	「年」「那」 「大」「文」	「都座」を我如古(弥栄)、安慶田賢明一派が首里区儀保で旗揚げ。旧三月三日公演四／八には潮会が「組踊で相変わらず人気を惹いて居る」と報じられる。
一九一八年 四月一四日	*	手水之縁	中座	「年」	旧三月三日公演
一九一八年 四月一四日	*	矢蔵之比屋	潮会	「年」「大」	旧三月三日公演
一九一八年 四月一四日	*	手水之縁	潮会	「年」	旧三月三日公演
一九一八年 四月一四日	*	姉妹敵討	潮会	「年」	旧三月三日公演
一九一八年 四月一四日	*	義臣物語	潮会	「年」	旧三月三日公演
一九一八年 五月四日	*	執心鐘入	沖繩公論社社員	「年」	沖繩新公論社の一周年紀念会が行われ、中座の座員と社員による「社員劇(執心鐘入)」上演。
一九一八年 五月四日	同年五月五日	執心鐘入	沖繩公論社社員	「年」	沖繩新公論社の一周年紀念会が行われ、中座の座員と社員による「社員劇(執心鐘入)」上演。
一九一九年 七月二五日	*	村原	多良間島	「年」	多良間村役場の落成祝賀会。
一九二〇年 九月二一日		森川の子		「年」	尚侯爵(尚典)の「突然御危篤」の記事。尚典が療養中に「近來『森川の子』の組踊の朗読を聞かれるのがお慰み」とある。組踊の詞章を朗読していたことが証明される記事。ちなみに尚典は同年九月二〇日逝去。

一九二二年 七月二日	*	東辺名夜討	若葉団	〔年〕	平敷屋朝敏作の万歳を劇化したもの「斯かも此組踊は従来のもとは全然趣を異にして至つて現代的狂言風に仕組んだのでありますから女御子供衆でも極く面白く斬新奇抜に脚色してあります」同年二月二〇日「古劇研究熱の再燃」と報じられるが、その後の記事はない。
一九二三年 九月九日	同年九月二〇日	不明	新生劇団	〔年〕	新生劇団と琉球古劇保存会の合同慈善演劇会（おそらく関東大震災義援金募集のため）で古劇上演。九月二〇日から一〇日間開催、と報じられる
一九二四年 三月五日	*	執心鐘入	大正劇場	〔年〕	第七高等学校の観劇会にて上演。
一九二四年 八月一日	*	不明	会場・尚琳邸	〔年〕	伊藤博士来県歓迎会が尚琳邸で行われ、「組踊も上演」と報じられる。
一九二五年 五月		二童敵討	不明	〔舞〕〔那〕 〔大〕〔文〕	秩父宮殿下来沖「かなよう天川」も上演。「史」…このころ、野村琉舞踊舞が設立。盛重の教えを受ける。
一九二五年 五月二日	同年五月三日	姉妹敵討	不明（会場：三杉楼）	〔年〕	出演者は名城春保・照屋林盛・上江洲安知・田崎厚仁・知念清仁・新垣盛守ら。
一九二五年 五月二日	同年五月三日	姉妹敵討	不明（会場：三杉楼）	〔年〕	出演者は名城春保・照屋林盛・上江洲安知・田崎厚仁・知念清仁・新垣盛守ら。
一九二六年 三月一〇日	同年三月二一日	花壳之縁	野村流協会	〔年〕	「玉城盛重指導の下、稽古を急ぎ居り」とある。東宮行啓記念琉球音楽会。会場は公会堂。

掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九二七年 十一月五日	同年十一月 一〇・二一日	忠臣身替	野村流協会	〔年〕	与那原大火罹災者救助の一端のため、慈善音楽会並舞踊古典劇大会が催される。一九二八年一月、阿波連本啓が大正九年に鶴見に上京していたところ、「琉球古典劇研究」のために約一ヶ月間帰郷すると報じられる。
一九二八年 九月六日	*	不明	湖城一派	〔年〕	嘉手納劇場で湖城一派の「古典劇研究会」が「毎晩劇を取り変へ頗る大人気を博して居る」と報じられる。
一九二八年 九月一日	同年九月一六日	不明	不明（会場：三杉楼）	〔年〕	沖繩医師同窓会の秋季総会の懇親会にて「古典劇」を観覧すると報じられる。
一九二九年 四月二三日		花売之縁 手水ノ縁 忠孝婦人		〔年〕	琉球レコードが発売と広告が出る。吹き込みは昭和三年一月。演目の中に、「花売之縁 手水ノ縁 忠孝婦人」とあり、組踊の音曲が多く吹き込まれている。同年八月九日には伊波／真境名の発起人で「琉球古典劇に関する座談会」が八月一〇日に行われることが報じられる。「尚ほ今夜は平良晨盛氏の大形蓄音機（組踊、村原、手水の縁、森川の子、琉球古謡十数番及び俗謡」と多嘉良朝成氏の先嶋民謡もある筈です」とあり、四月に広告のあったレコードと演目が一致しているため、このレコードを流した可能性がある。八月一九日に座談会記録あり。
一九二九年 八月九日	同年八月一〇日				伊波普猷、真境名安興の発起で「琉球古典劇に関する座談会」が開催される。参加を呼びかけた人物は、玉城盛重、伊差川世瑞、太田朝敷などの芸能家や知識人たちであった。この年一〇／五日に『校註琉球戯曲集』が発刊される。

一九三六年 五月三〇日	*	花壳之縁	東京公演団(会場… 日本青年館)	〔年〕〔大〕〔沖〕 〔文〕〔史〕 〔組〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三〇日	*	執心鐘入	東京公演団(会場… 日本青年館)	〔年〕〔大〕〔沖〕 〔文〕〔史〕 〔組〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月九日	同年一月一二 日	執心鐘入	東京公演団(会場… 珊瑚座)	〔年〕	東京公演(五月三〇日・三十一日)の試演会五月 一二日から一五日まで。珊瑚座にて開催
一九三六年 五月九日	同年一月一二 日	銘苅子	東京公演団(会場… 珊瑚座)	〔年〕	東京公演(五月三〇日・三十一日)の試演会五月 一二日から一五日まで。珊瑚座にて開催
一九三六年 五月九日	同年一月一二 日	花壳之縁	東京公演団(会場… 珊瑚座)	〔年〕	東京公演(五月三〇日・三十一日)の試演会五月 一二日から一五日まで。珊瑚座にて開催
一九三六年 五月九日	同年一月一二 日	二童敵討	東京公演団(会場… 珊瑚座)	〔年〕	東京公演(五月三〇日・三十一日)の試演会五月 一二日から一五日まで。珊瑚座にて開催
一九三三年 一月一日	同年一月一二 日	花壳之縁	不明(会場…昭和会 館)	〔年〕	昭和会館の演芸舞踊大会
一九三三年 一月一日	同年一月一二 日	忠孝婦人	不明(会場…昭和会 館)	〔年〕	昭和会館の演芸舞踊大会
一九三二年 四月	昭和七年四月	手水之縁	真楽座	〔大〕〔文〕 〔那〕	大正劇場に真楽座(玉城盛義が座長)を結成。
一九三一年 八月		人盗人	朝日劇場	〔舞〕〔組〕	「組」真境名由康、「人盗人」を創作、旭座で上 演。とある。『真境名由康人と作品』には「昭和 七年」の項目に「このころ創作組踊「人盗人」を 那覇公開(ママ)堂で上演とある」

一九三八年 一月二七日		手水の縁	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕 〔組〕	沖繩レコードで「手水の縁」の台詞が吹き込まれたものが発売される。
一九三六年 五月三一日	*	花売之縁	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三一日	*	執心鐘入	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三一日	*	銘苺子	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三一日	*	二童敵討	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三〇日	*	銘苺子	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
一九三六年 五月三〇日	*	二童敵討	東京公演団(会場) 日本青年館	〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕〔大〕〔年〕 〔組〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕〔沖〕〔大〕 〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕〔史〕〔文〕	日本民俗協会主催「琉球古典芸能大会」
掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考

一九三九年 六月一七日	一九三九年 六月一日	一九三九年 五月二三日	一九三九年 五月一三日	一九三九年 五月九日	一九三八年 五月五日	一九三八年 五月五日	一九三八年 四月一八日
*	*	*	日		*	*	*
姉妹敵討	忠孝婦人	人盗人	銘苅子	人盗人	義臣物語	人盗人	義臣物語
真楽座	野村流音楽協会	珊瑚座	珊瑚座	珊瑚座	珊瑚座	珊瑚座	珊瑚座
〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕	〔年〕〔組〕
「久し振りの古典劇!!」とある。	公会堂で「軍人遺家族慰安音楽舞踊大会」が行われる。	「古典劇の夕 けふ珊瑚座で民芸同人総見」 「今夕珊瑚座に於て第二回目の古典舞踊及び組踊りの総見をなし、心ゆくまで郷土舞踊の情緒を味ふこととなつた」と報じられる。童役に真境名スミ子の名がみえる。	鹿児島東別院の重永へ観せるための上演。	上演日は不明。「日本民芸館同人」とだけある。文中に「旧三月を楽しく過ごす女の人たちでいっぱいであつた」とあるので、旧暦三月三日公演もしくは、五月二三日記事に「第二回目の古典舞踊及び組踊りの総見」とあるので第一回目の総見か。	藤田嗣治の来沖に際して企画されたもの十日には「みはらし亭」において玉城盛重の舞踊を見せている。	藤田嗣治の来沖に際して企画されたもの十日には「みはらし亭」において玉城盛重の舞踊を見せている。	国吉之比屋真元碑に關係する公演。組踊に客入りが良かったらしい。「組」：四月一二日の沖繩日報に「古典劇としての国吉之比屋は大正六年端道にあつた潮会時代に上演してより茲に二十年、見ることが出来なかつた」「玉城盛重氏について台詞廻しや所作を俳優一同教えをうけ」たとある。



掲載年月日	上演年月日	演目名	出演および劇場	典拠	備考
一九三九年 八月二二日	*	花売之縁	珊瑚座	〔年〕〔沖〕	東恩納寛惇先生歓迎、古典劇大会、玉城盛重特別出演。真境名由康・鉢嶺喜次・金武良章・宮木能造らの出演。「玉城盛重舞踊研究会並に珊瑚座主催による古典劇大会」とある。
一九三九年 八月二二日	*	二童敵討	珊瑚座	〔年〕〔沖〕	東恩納寛惇先生歓迎、古典劇大会、玉城盛重特別出演。真境名由康・鉢嶺喜次・金武良章・宮木能造らの出演。「玉城盛重舞踊研究会並に珊瑚座主催による古典劇大会」とある。記事に九月六日新報に戦時体制強化のため、村芝居にも指導が入ることが報じられる。十月三日の新報には、本部町備瀬が五年ぶりの豊年祝いのため行われる三日間の村芝居を一日だけの開催とし、余剰金二〇円を恤兵金として献金すると報じられる。
一九四〇年 一月五日	*	花売之縁	珊瑚座	〔年〕	柳宗悦一行を歓迎しての古典劇鑑賞会「柳先生歓迎古典劇大会」記事に「特に今晚(五日)タケ」とある。柳宗悦の第三回訪沖のこと。この時、鶴松役に真境名苗子がいる。舞踊では金城芳子、市川ユキ子、高嶺テル子、田代タカ子の名が見える。盛重を招聘してかきやで風と諸鈍、森川の子をさせている。
一九四〇年 二月二八日	*	古典劇八重瀬万歳	珊瑚座	〔年〕	日劇一行が八重山を取材、「八重山レビュー」の研究帰りに那覇に立ち寄る。「日劇一行お望歓迎の為め特に今晚だけ」とある。
一九四〇年 三月二一日	同年三月二二日	微行之巻	真楽座	〔年〕	玉城盛重古希祝賀会二月二八日記事に「孝行の巻と忠孝婦人を上演する」とあるが、微行之巻の間違いだったか。参加団体は「玉城盛重舞踊研究所・松蔭会・高容会・野村流音楽協会並舞踊団体・安富祖流音楽会並舞踊団体・真楽座・珊瑚座」出演延人員約八十名」とある。二二日二三日は真楽座。組踊は微行之巻

一九四〇年 三月二一日	同 年三月二四 日	忠孝婦人	珊瑚座	〔年〕	玉城盛重古希祝賀会二月二八日記事に「孝行の巻と忠孝婦人を上演する」とあるが、微行之巻の間違いだっただか。参加団体は「玉城盛重舞踊研究所・松蔭会・高容会・野村流音楽協会並舞踊団体・安富祖流音楽会並舞踊団体・真楽座・珊瑚座」出演延人員約八十名」とある。二四日二五日は珊瑚座。組踊は忠孝婦人。
一九四〇年 四月二日	同 年四月二・三 日	中城若松	真楽座	〔年〕	西新町青年団主催「出征軍人遺家族慰安演劇大会」
一九四〇年 四月一一日	*	孝行之巻	真楽座	〔年〕	旧三月三日公演
一九四〇年 五月四日	*	銘苅子	野村流守礼会	〔年〕	出征軍人遺家族慰安演劇会。玉城盛重舞踊研究会の舞踊と、野村流守礼会の公演。「二中前記念館落成祝賀会」と合同。玉城盛重舞踊研究会の「秘宝的乙女団、野村流守礼会の天才少女部員がおのおの特技を大公開」とあり、出演者は「嘉数松雄、嘉数礼子、仲浜政一、山城栄子、石川良子、山城清子、金城好子、上原春子その他多数」とある。女性による舞台は、日劇の琉球レビューなどの影響で受け入れられてきたと思われる。同年一〇月二五日の沖繩日報に「嘉数松雄氏の長女礼子(六ツ)」「四才の頃から琉球の団十郎といはれている玉城盛重翁の手ほどきを受け」とあり、東京で琉球舞踊を上演した記事が掲載されている。
一九四〇年 五月一九日	*	人盗人	珊瑚座	〔年〕	火野葦平、杉山平助、河原重巳、中山省三郎、劉寒吉らの来沖に際して上演。
一九四〇年 六月五日	*	人盗人	珊瑚座	〔年〕	春陽会 川畑弥之介、三木朋太郎、山川清、大久保一郎、宮下貞之助演劇大会とある。

一九四〇年 七月二五日	*	上演年月日	人盗人	演目名	珊瑚座	出演および劇場	典拠	備考
一九四〇年 一月三日	同年一月 一〇日	忠孝婦人	屋嘉舞踊団	「年」	皇紀二千六百年祝典の芸能として波上修養道場ニテ開催される。一月八日沖繩日報の記事に「組踊は久し振りの忠孝婦人である」とある			
一九四二年 九月一八日	*	忠臣身替	真楽座	「年」				
一九四三年 八月	昭和一八年八 月	大川敵討	不明	「大」「文」 「沖」「那」 「史」	竜潭浚渫祝賀会において上演。金武良章・久場守廷・平良某、等。			
一九四三年 八月	昭和一八年八 月	万歳敵討	琉球歌舞団	「大」「文」 「沖」「那」	仲井真元楷主催の東京公演。築地小劇場と「国際劇場」で上演			